

横浜市学力学習状況調査の結果

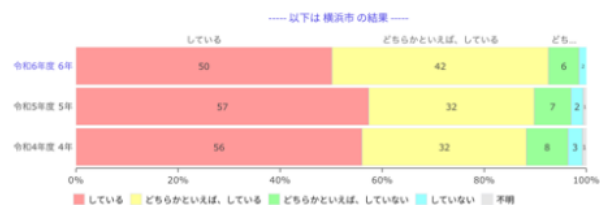
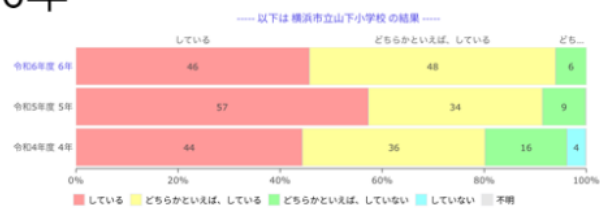
意識調査に着目した活用分析

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を意識した授業構想に取り組んでいます。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関係する項目に着目して分析しました。

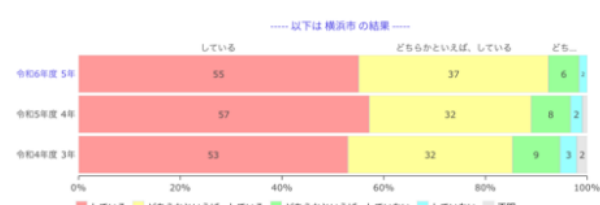
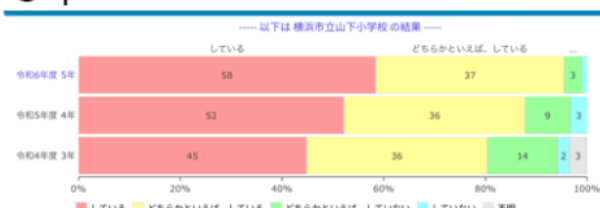
【分析チャート】

「自分の考えを、相手に分かるように伝えようとしていますか。」

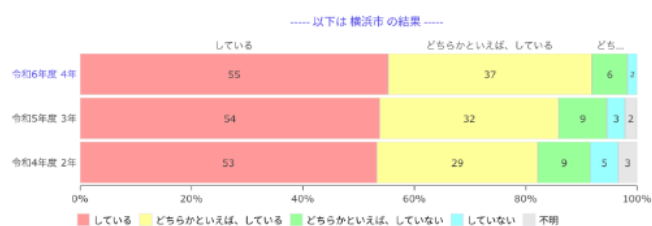
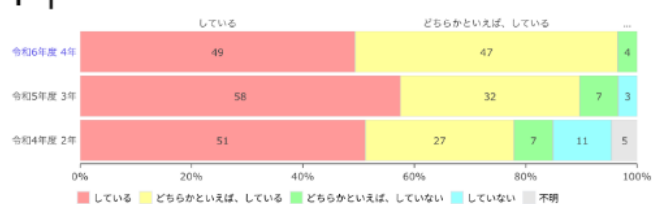
6年



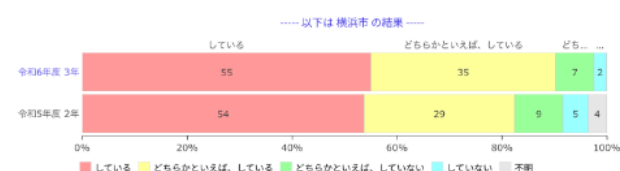
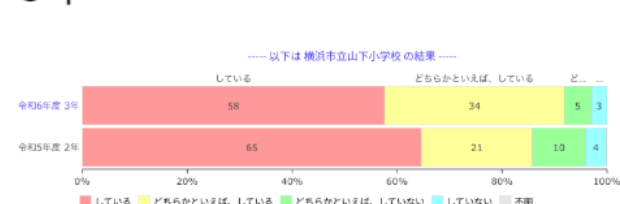
5年



4年



3年



2年



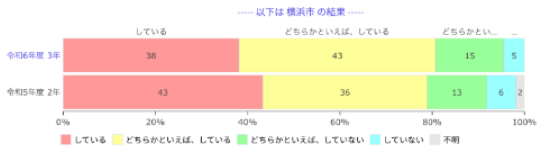
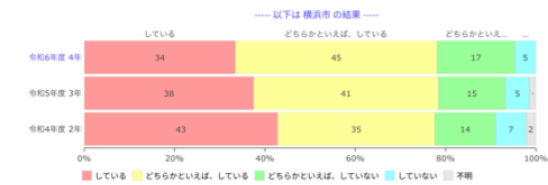
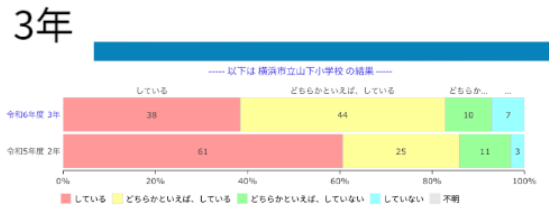
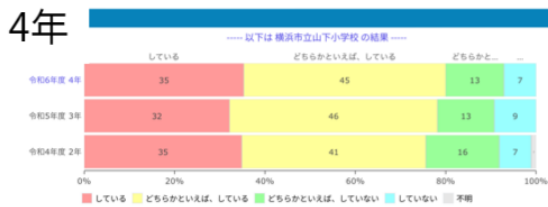
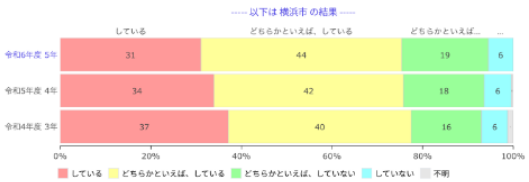
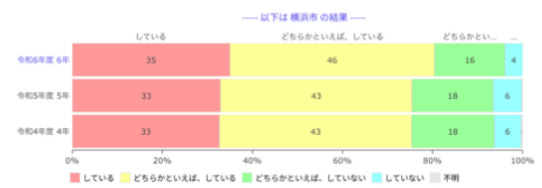
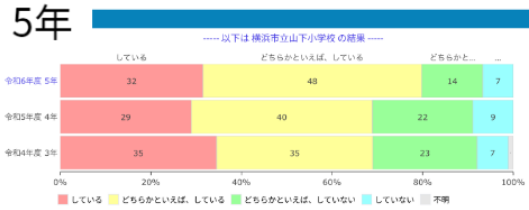
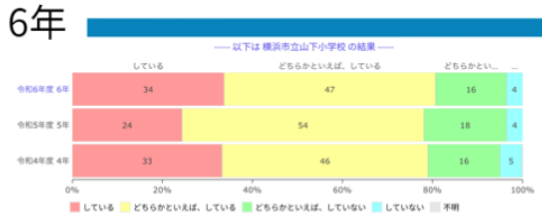
山下小学校児童
令和6年度グラフ
令和5年度グラフ
令和4年度グラフ

横浜市 児童
令和6年度グラフ
令和5年度グラフ
令和4年度グラフ

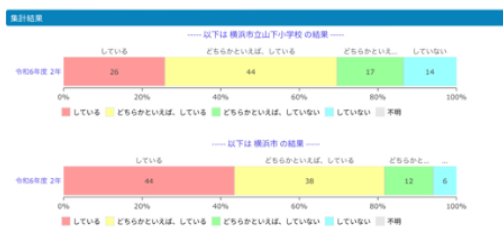
- ・「自分の考えを、相手に分かるように伝えようとしていますか。」という設問において、今年度横浜市よりも「している」「どちらかといえばしている」を合わせた割合が、高いまたは同程度であることが分かります。また、全市的な傾向として「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に解答している割合が徐々に増加している傾向にあります。ここ数年間の山下小学校では、上昇率が大きいことが分かります。

【分析チャート】

「課題に取り組んでいる途中に、自分のやり方がうまくいっているか、自分で確かめながら取り組むようにしていますか。」



2年



山下小学校児童
令和6年度グラフ
令和5年度グラフ
令和4年度グラフ

横浜市 児童
令和6年度グラフ
令和5年度グラフ
令和4年度グラフ

・「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に回答している割合が、ほとんどの学年が横浜市と比べて高いことがわかります。また、過去の学年度と比べて、上昇傾向に見られます。

〈分析と授業改善の視点〉～全ての教科等に共通した授業改善～

分析チャートより教科等における学習活動の中で、児童が自らの学習の仕方を見直し、確かめながら学習に取り組めるような機会を設定し、自らの学習の仕方を調整する力が少しずつ、表れています。また、自らの学習の仕方を見直すきっかけとして、相手や目的を十分に意識した協働的な学びの充実が成果につながった要因と考えられます。

今後も、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていくことを通して、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整する力が身に付く授業づくりを推進していきます。